

論文要旨

1. 李 巧珍(リ コウチン・中国)

「方言コスプレ」についての考察 一日中若年層の「方言コスプレ」実態調査に基づいて—

キーワード: 方言、方言コスプレ、日中若年層、日本と中国の比較

要旨:

方言が気軽に使えるようになってきている。「おもしろさ」や「男らしさ」を演出するために、方言を会話に混ぜて話す現象はよく見られる。田中(2007)は、こういった方言を臨時に着脱するように使用する現象を「方言コスプレ」と呼んだ。一方、中国には「方言コスプレ」のような単語はないが、「方言コスプレ」的な行為は流行っている。しかし、中日両国の若者の方言コスプレの実態やそれに対する意識には大きな違いがあると言える。

本稿では、若年層の方言コスプレ行為に着目し、日本の若者の方言コスプレ実態と方言コスプレへの意識についてアンケート調査を行った。加えて、中国の若者に対してもアンケート調査を行い、その結果から異同点を探り、特にその相違点の裏面にある背景を分析・考察してみた。

研究の結果、日本でも中国でも若者は雰囲気や社会的な配慮から方言コスプレを行い、方言コスプレを積極的に捉えているが、方言コスプレに対する敏感さ、方言コスプレをする形式、対象者及び場面などの面においては多くの相違点が見られた。さらに、これらの相違点の背景には、両国の言語概況・言語政策や SNS の使用慣習の違いなどがあると言える。

2. ホー, ティ ニュ ホアン(ベトナム)

日本の「おもてなし」—在日ベトナム人に対するアンケート調査から—

キーワード: 日本の「おもてなし」、「お・も・て・な・し」のプレゼンテーション、茶の湯、「おもてなし」企業、在日ベトナム人の認識と評価

要旨:

「おもてなし」は日本の文化の一つで、2013 年の東京オリンピック招致のプレゼンテーションにおいて、「お・も・て・な・し」の心の印象が世界に強く広がった。筆者は、来日してから飲食店やホテルなどでの「おもてなし」を受け、日本の「おもてなし」について興味を持った。来日前も、日本のサービスが高く評価されていることを知っていたが、「おもてなし」ということは日本に来てから知った。そこで、在日ベトナム人は「おもてなし」についてどのような認識を持っているか、どのように評価しているか疑問に思い、このテーマについて研究を行った。

本研究では、日本の「おもてなし」の定義、歴史、現代日本の「おもてなし」企業について検討した。そして、在日ベトナム人を対象としたアンケートを行い、彼らの日本の「おもてなし」の認識や評価を明らかにした。

アンケートの結果から、多くの在日ベトナム人は「おもてなし」を認識し、喜んで受けており、高く評価していることが明らかになった。さらに、外国人としてのベトナム人にとって、「おもてなし」は日常生活でも旅行においても非常に魅力があるとも言えることも分かった。

3. 王 雪桐(オー セットー・中国)

「忌み言葉」に対する若者意識の考察—日本と中国の比較を中心に—

キーワード: 忌み言葉、「死」の言い換え表現、日中比較、若者の意識、異文化コミュニケーション

要旨:

異文化コミュニケーションのためには、相手の国の文化や習俗を理解することが重要である。忌み言葉はコミュニケーションの際に注意すべき礼儀の一つであると考え、このテーマを選んだ。日本と中国の忌み言葉の異同点、両国の若者が忌み言葉を避ける意識などについて研究した。

本研究では、まず「死」についての言い換え表現を考察した。次に、受験、結婚式、出産などの場面・対象別に縁起の悪いことを連想させる表現をまとめ、分析した。そして、日中両国の若者を対象としたアンケート調査を行い、両者の意識を検討した。

研究の結果、死者の年齢・身分等で、死の言い換え表現が異なるということが明らかになった。また、縁起の悪さを連想させる表現が、場面・対象によって異なることを確かめた。さらに、アンケート結果から、両国の若者は忌み言葉に関して意識はしているが、意識の強さが場面によって異なることが判明した。両国の若者が正しく忌み言葉を意識することは、互いの文化と習俗を理解するだけでなく、異文化コミュニケーションをうまく進めることにもつながると思う。

4. チウサクル, スパスタ(タイ)

「推し活」に費やすお金と幸福度の関係 ―日本とタイの「推し活」の比較―

キーワード: 推し活、推し、日本とタイの比較、お金、幸福度

要旨:

「推し活」は、日本ではお金がかかるイメージがあり、同じ推しグッズのまとめ買いなどをよく見かけるが、タイではそのようなイメージがあまりない。また、推し活をすることで幸福感を得ることを証明した調査や研究があるが、お金と幸福感について調べた研究がない。日本人が推し活に多くのお金をかけるのは、もっと幸福を感じたいからなのではないかと考えた。そこで、日本とタイの推し活にはどのような違いがあるか、推し活に費やすお金とそれによって得る幸福度に関係があるかということについて、研究を行った。

第 1 章では、「推し活」という言葉の由来と両国の推し活について述べる。第 2 章では、推し活に費やすお金とそれによって得た幸福度の関係性を調べるために、「推し活」に関するアンケートを行い、日本とタイの結果を比較した。

「推し活」に関するアンケートの結果、日本とタイの推し活にはそれぞれの国の背景による違いがあり、日本人の方がタイ人より推し活に多くのお金を使っているが、どちらの国も推し活にお金を費やせば費やすほどそれによって得る幸福度が高まるということが同じだった。

5. 劉 思然(リュウ シゼン・中国)

日中両国の教育実習の比較研究 ―岐阜大学の教育実習を中心に―

キーワード: 教育実習、岐阜大学の「ACT プラン・プラス」、日中比較、教員免許状、教職サポート

要旨:

筆者は以前から小学校の教師になりたいと考えていたため、日本の教育制度や歴史等にも興味を持つようになった。以前授業レポートで日本の教員採用試験について考察した。その際に、日本では教育実習が免許状と関連しているということに気づいた。中国の教員免許状の取得は教育実習と無関係であり、教育実習が必修なのは教職専攻の学部生・院生のみである。それは両国の教育実習制度の大きな相違点と言える。そこで、日中両国の教育実習の比較というテーマで研究を行った。

第 1 章では、日本の教育実習について考察する。第 2 章では、岐阜大学の教育実習、特に「ACT プラン・プラス」について考察し、教育学部の 4 年生と卒業生に対するアンケート調査を行った。第 3 章では、中国の教育実習を日本の教育実習と比較して考察し、現在の問題点を踏まえ、日本の教育実習の制度等を参考にした改善策を提案する。

研究の結果、日中両国の教育実習は共通点も相違点もあることが判明した。日本の教育実習の制度は中国の教育実習の改善策の提案に役に立つと言える。アンケート調査では、教育実習を経験した学生は教員になりたい気持ちが更に強くなっていたので、教育実習の必要性が証明された。